

平成 28 年度西部支部秋季セミナー印象記 —デジタル印刷を取り巻く技術革新の未来像—

坂本 秀隆*

Hidetaka SAKAMOTO*

(一社)日本印刷学会西部支部は平成 28 年 10 月 14 日(金)、(株)モリサワ・セミナーホールにて「秋季セミナー—デジタル印刷を取り巻く技術革新の未来像—」を開催した(写真 1)。drupa2016 で更なる進化発表があった印刷機と周辺機器の報告を含め、デジタル技術の最新動向を 4 社 4 名の講師により講演をおこなった。

以下に、その概要を記す。



写真 1 開会挨拶をされる出井支部長

設計の必要性が伝わる内容であった。

さらに具体例としてロール紙から、折り本状態にするまでのパターンと、それに準じた面付けの考え方、そしてよくある質問として品質管理上必要なバーコードや各種マークの印刷のありかたも分かりやすく解説された(写真 2)。

ポストプレスまでの一気通貫の仕組み作りが、近未来像から現実化してきていると感じた。



写真 2 衣川講師

1. デジタル印刷で拡張する、ポストプレスの可能性

ホリゾンインターナショナル(株) 衣川竜二氏

drupa2016 では、デジタル印刷後のポストプレス工程の関連出展社が多くフロアー面積も広くとられ、有力ユーザーも沢山来られていた。デジタル印刷になることで後工程として何を変える必要があるのか、メーカー各社の開発着眼点がまとまってきた。従来のまとめ仕上げから順次仕上げへの変化、要員は専任から兼任作業員への変化、デジタル印刷への変化がポストプレスに表れてきた。工程設計として製本機を選択する優先順位があがり、さらに面付け基準を考慮する必要があるため、製版から製本までの全体

2. drupa2016 に見るトレンド

サカタインクス(株) 柳本賢一氏

drupa 報告として、デジタル印刷はパッケージ系製品への拡張、そして新技術として液体トナー採用プリンターが注目されている。ハイデルと富士フイルムとの共同開発で枚葉機を思わせる機械フォームの Primefire106、KODAK の絶え間なく連続印刷する展示、Canon のカメラメーカーだからこその画像品質。どれも臨場感のある報告内容であった。しかし残された課題も多くあり今後の動向に注目すべきである。ポストプレスはブックオンデマンドと表面加工等の付加価値技術の発表が多く見られ、後加工から見たワークフローの提案が各社からおこなわれている。ミューラーマルティニーからは通信インフラを使用し

*日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(〒604-8551 京都府京都市中京区壬生花井町3)

たタッチレス手法の提案、Connexによる最適な加工ラインの設計システムがワークフロー技術として注目されている。

印刷と加工の一気通貫した展示が、実働イメージを掴みやすくしているとの報告であった(写真3)。



写真3 柳本講師

3. drupa2016でのLanda Nanographyの進化は？

(株)小森コーポレーション 吉川武志氏

講師の吉川氏は、Landaの正式な解説者として認定されており、最先端技術を理論的に解説された(写真4)。

Landaの高品質の理由として、シャープなドット形成、広い色再現域、あらゆる用紙に印刷可能。この3本柱の特長技術をそれぞれ挙げ、分かりやすいようにした拡大写真での効果説明には、聴講者の理解がうかがえた。

色再現域では、Pantoneでの対応範囲として、ISO CMYKでの65%に対し、Landa CMYKでは84%、そしてLanda CMYK+OBGでは96%もの色域をカバーしているため特別なspot colorは必要ない。Landa S10 B1印刷+インラインコーティングのサンプル展示にはセミナー終了後も沢山の聴講者が取り囲んでルーペ観察をしていた。



写真4 吉川講師

4. 未来をデザインする『FUJIFILM INKJET TECHNOLOGY』とその拡張性

富士フイルム グローバルグラフィックシステムズ(株)

加藤昌法氏

インクジェットの精緻な技術を説明する講義内容であった。インクの沈降とノズル詰まりを防ぐインク循環機能が飛躍的なインク吐出安定につながり、さまざまなインクに対応可能となり、さらにヘッドに採用されたシリコン半導体技術と相俟ってきわめて正確にインクをねらった位置に着弾させることが可能になった。インク自体の開発としては溶剤・重合性化合物・顔料の配合調整によるソルベントとUVとのハイブリッドインクの開発とその特性の解説がされた。インクが着弾後に隣接インクと付かないRapid技術によってオフセット印刷に肉薄する解像性に至った経緯が、分かりやすい図解を用いた化学セミナーの雰囲気であった。インクジェットの弱点である滲みや太りに対してマイクロな物理現象まで遡っての説明であった(写真5)。



写真5 加藤講師

5. まとめ

秋季セミナー4つの演題は、有力メーカーがdrupaで発表した内容を精査し技術比較ができる内容であった。デジタル印刷から製本に繋がるフローの解説においては、今後導入する側にとっては非常に参考になる現実味のある解説として、真剣に聞き入る聴講者の姿勢があった。一方いずれの講演にも残された課題説明があり、改善期待と今後注目すべきポイントが明確に提言されたセミナーであった。